

平成27年度 椎葉村立大河内小学校 学校関係者評価書

4段階評価〔 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する 〕

	本年度の重点目標	具体的対策(手段)	職員	保護者	学校 評価 関係者	結果の考察・分析及び改善策等	保護者及び学校評価関係者からのコメント
豊かな 社会力 の育成	さまざまな体験活動を通して、感性を磨き、自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力を身に付ける。	① 規範意識のある行動とボランティア活動の継続化	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q-Uテストの結果、児童全員が学校生活に「満足」と回答している。今後も、毎月のアンケートを継続したり、教育相談体制の充実を図ったりする。 ・ 読書月間や読書の日などを設定することで、貸出冊数は増加したが、「家読」の取組は不十分である。今後は家庭での環境づくりを進める。 ・ 神楽への取組は地域の方々の協力もあり、村内だけでなく、村外にもその成果を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶や言葉遣いなど学校では望ましい姿を見せているが家庭や地域ではもう少しである。 ・ イオンでの「椎葉村についての発表」を見ると、11名の児童全員に表現力が身に付いてきていることがよく分かった。 ・ 貸出冊数が昨年比で約3倍も増えている点は評価できる。今後も継続して読書活動を推進してもらいたい。 ・ 神楽への取組は期待以上であった。今後は、臼太鼓についての取組を具体化させてほしい。 → まずは臼太鼓踊りという伝統文化を知ることから。そして、大人の臼太鼓踊りをそのまま踊るのではなく、子ども用にアレンジする。臼太鼓保存会の協力を得ながら、学校の教育活動に取り入れてほしい。
		② 基本的な生活習慣やマナーの習得	4	3	4		
		③ 体験活動と事後の表現活動の充実	4	4	4		
		④ 読書活動の充実	3	3	3		
		⑤ 地域行事への参加と伝統文化習得	4	4	4		
		① 「しっかり教える、じっくり考えさせる授業」の	2	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 到達度学力検査（CRT）結果は、国語科は1、3、4 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参観日の授業参観から、先生方が授業内容を工夫してい

授業力向上と学力向上	授業の工夫を通して、児童一人一人の学習意欲を高め、授業力及び学力を上げる。	実践	0	+	+	<p>5、6年か、算数は王子平が全国平均を上回る結果となったが、学力の定着に課題のある児童の状況を把握するとともに、これまでの指導の在り方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式解消（1・2年国語、3～6年理科、5・6年社会の指導体制や放課後を利用した4年生以上の「ASSUタイム」による補充学習を継続することでさらなる学力向上を図る。 ・ 家庭学習の習慣化のために家庭との連携をさらに深めるとともに、学校全体としての取組も取り入れる。 	<p>ることや子どもたちも思欲的に取り組んでいることが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式解消のための取組や「ASSUタイム」の実施などを継続し、さらなる学力向上に努めてもらいたい。 ・ 家に帰ってから、時間を決めて学習する習慣を付けておくことが大切なので、学校と家庭で連携して取り組んでいく。 ・ 子どもたちに不足している体験活動をさせてほしい。例えば、以前実施していた竹細工作りなどを行い、のこぎりや小刀などの道具を使うという授業を位置付けてほしい。
		② 複式解消の支援体制整備と個別学習の充実	3	3	4		
		③ 家庭学習の習慣化	4	3	4		
		④ 「学びっ子週間」の充実と学習習慣の定着	3	3	3		
		⑤ Web学習単元評価システム活用と学力向上	3	3	3		
		⑥ 地域人材活用を活用した学びの充実	3	4	3		

健康・安全と体力向上	特色ある体力づくりの活動を充実するとともに健康・安全への意識を高め、子ども一人一人が命を大切に、危険回避能力を高める。	① 体力向上プラン完全実施による体力向上	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力テストの結果は（A…5人、B…4人、C…2人、D・E…0人）である。全校児童による体育の授業、業間活動、昼休みの遊びなどを継続することで体力向上が図られている。 ・ 関係機関と連携し、実効性や実感を伴う訓練の実施を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異学年の児童全員で毎日遊んでいる様子、児童全員の元気な声が区内によく聞こえてくる。下級生は上級生についていこうと努力することで遊びながらも自然に体力向上が図られている。D・E判定の児童がいないことも評価できる。 ・ 大河内はこれまで大きな災害を経験した土地である。最近、「ゲリラ豪雨」の発生が度々あり、天気予測がつきにくいこともあるので、そういう状況を想定し、公民館や消防団などとの連携を密にし、情報を共有することが大切である。
		② 避難訓練や土砂災害等の学習を通じた、危険予知能力や危険回避能力の育成	3	3	3		
		③ 地域や関係機関と連携した安全・防災教育	3	4	3		
望ましい食習慣の育成	学校と家庭・地域との連携を通して、食育に対する意識を高め、子ども一人一人が望ましい食習慣を身に付ける。	① 「すくすく週間」の充実と、食事マナーの習得	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のすくすく週間や毎日の給食指導により、食に対する意識の向上が図れた。弁当の日の取組も年々充実してきた。 ・ 可能な限り、授業に地域人材を活用し、魅力ある教育活動を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの将来の自主・自立を考えたときに、弁当の日の取組はたいへん有効である。 ・ 大河内小では残滓がでることなくみんなよく食べている。子どもによっては多少好き嫌いがあるが、給食だと残さず食べている。 ・ 米作りなどの勤労生産学習はぜひ続けてほしい。現在利用している田んぼは本年度までなので、場所を確保する必要がある。 →（PTAからの提案） 駐車場横の畑の近くに、新しく田んぼを作り、日常的に児童が稲の生長過程を観察できるようにする。
		② 「弁当の日」の取組の推進と食への意識向上	4	4	4		
		③ 農業体験や栽培活動の推進	4	4	4		
		④ 給食での地産地消推進と地域人材を活用した食の学習推進	4	3	4		

次年度の取組

- JRC活動の意義を再確認するとともに、現在の毎日のボランティア活動を継続する。挨拶やマナー指導については、児童一人になったときや家庭や地域での実践も評価しながら一人一人を高めていく。
- 表現活動を学校外で実践する場を意図的に設定し、どんな場所でも誰に対しても自信をもって自分を表現できる児童を育てる。
- 「家読」推進のために、参観日などを通して、読み聞かせや親子読書の有用性などを伝え、実践化を図る。また、メディアとのつきあい方を含め家庭での環境づくりについても重点的に取り組む。
- 神楽や臼太鼓踊りについては、ふるさと学習の一環として取り組むために、保存会の方々の協力を得ながら総合的な学習の時間を中心に取り組む。
- 授業力向上のために、学校におけるOJTを計画的に進める。
- 複式解消のための取組や、放課後の補充指導「ASSUタイム」は継続する。
- 家庭学習の習慣化、課題の与え方、家庭での学習意欲向上を図るための手立てについて全職員で共通理解し取り組む。
- 地域人材を活用したものづくり体験などを企画し、地域の方々との交流を図るとともに、直接体験をさせる場を設定する。
- 体力テストで評価が低かった種目については、業間や体育の時間に重点的に取り組む。
- 地域の消防団や関係機関と連携した防災・避難訓練を実施し、危険予知能力や危険回避能力を身に付ける。
- 米作りなどの体験活動については、学校の近くに実習田をつくり、児童が日常的に観察や手入れができるようにする。